



【韓国】 総合指数は週間で0.2%高と3週続伸、方向感欠くも決算期待が支え

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.2%高と3週続伸。週を通して方向感に欠ける展開となった。前週末が2年ぶり高値で終えただけに利益確定売りが膨らみ、週明け20日は3営業日ぶり反落。21日は17年第1四半期の企業決算に対する根強い期待が相場を支え、終値ベースで11年7月以来の高値を付けた。22日からはトランプ米政権による政策運営の先行き不透明感が高まり、様子見ムードが広がる中、指数は2170ポイントを挟んで一進一退の展開が続いた。トランプ政権が最優先とする医療保険制度改革法（オバマケア）代替法案の議会審議が難航したことを受け、経済政策や税制改革に遅れが生じるとの懸念から投資家のリスク許容度が低下した。今週は3月28日にGDP、4月1日に貿易統計など国内経済指標の発表が続く。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で1.1%高と続伸、今週は現行水準でもみ合いか

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で1.1%高と続伸。前週の流れを引き継ぎおおむね堅調だったが、週末のイベントを控え上値は重かった。週明けは、前週に資金流出懸念が後退したことや格付け会社のS&Pがロシアのソブリン格付け見通しを引き上げたことを引き続き好感し、前週末比0.9%高と上昇。その後は週末のロシア中央銀行政策決定会合まで様子見で、ほぼ横ばいとなった。24日は取引時間内に中央銀行が政策金利を9.75%に引き下げたと報じられると、指数は一時、小幅に上昇した。ただ、前週に中銀幹部が利下げ検討と表明していたため指数への影響は限定的。取引終盤には米オバマケア修正法案に関する不透明感から上げ幅を削り、前日比ほぼ変わらずの1124.66ドルで終了した。今週は現行水準でもみ合いが続くか。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は1.6%高と4週ぶりに反発、今週は堅調な展開が続くか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週を通じておおむね堅調に推移し、週間で1.6%高と4週ぶりに反発。前週に資金流出懸念が後退したことで引き続き市場心理が改善し、主力銘柄中心に買い優勢となった。指数は週半ばに利益確定売りから前日比マイナスとなったものの週間ではじり高。24日は08年2月以来の水準まで上昇し、722.14ポイントで終えた。売買代金が前週比12%増と楽観的な見方が広がった。主力銘柄では前週下落したサイゴンビール(-3.8%)、ビンググループ(-3.3%)、ファロス建設(-2.2%)が続落したが、指数ウェイトと時価総額がともに1位のビナムルク(+5.7%)が出来高を伴い上昇し指数をけん引。また銀行株が軒並み高となり、ベトジェットエア(+8.9%)も再び物色され指数を押し上げた。今週は堅調な展開が続くか。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%高、2 週連続で過去最高値を更新

ジャカルタ総合指数は週間で 0.5%高と続伸。週半ばまでは一進一退の軟調な値動きだったが、後半に買い戻されると、過去最高値を更新した前週からさらに上値を広げた。週初の 20 日は利益確定売りが出て、指数は小幅ながら 6 営業日ぶりに反落。22 日には場中に一時 5500 ポイントを割り込む場面もあったが、23 日は中央銀行の上級副総裁が 3 月の CPI 上昇率について、前月比 0.2%を下回るとの見通しを示したことが好感されて反発すると、24 日も続伸して週の取引を終えた。今週は 31 日にタックス・アムネ스티（租税特赦）法による 9 カ月の納税申告期間が終了する。28 日はサカ暦新年の祝日で休場。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.8%安、2 月の鉱工業生産が前年同月比 12.6%増と好調

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.8%安と 7 週ぶりに反落。週半ばまで 3 日続落したことが響いた。週初の 20 日に前週の反動が出て売られると、じりじりと下値を広げ、特に 22 日は米原油在庫の増加を受けた原油価格下落が嫌気されて、指数は前日比 1.3%安と低迷。一方、23 日は 2 月の CPI 上昇率が輸送費や食品価格の値上がりを反映し、前年同月比 0.7%と 14 年 8 月以来の高い伸びを示したことで買われて、4 日ぶりに反発した。24 日は 2 月の鉱工業生産が前年同月比 12.6%増と市場予想から上振れしたことが好感され、続伸して取引を終了した。今週は 30 日に 2 月の銀行融資残高が発表される予定。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

SET 指数は週間で 0.8%高と続伸。週半ばに小幅反落したのを除き、堅調に推移した。前半は買い材料に乏しい中、21 日まで 4 営業日続伸。22 日は 2 月の輸出（通関ベース）が前年同月比 2.8%減と 4 カ月ぶりにマイナスに転じたことが嫌気されて売られたが、23 日には買い戻されて反発した。今週は 29 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催するほか、31 日には 2 月の鉱工業生産指数と 1 月の小売売上高が発表される予定で、政策金利は 1.50%に据え置かれるとの見方が優勢。外部要因では、週後半に発表される 16 年 10-12 月期の米 GDP 確定値と中国の 3 月の公式製造業 PMI が株式相場を左右しそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.03%高、21 日に 15 年 5 月以来の高値を更新

クアラルンプール総合指数は週間で 0.03%高とほぼ横ばい。週前半は前週の流れを引き継ぎ堅調だったものの、後半の下落が上昇分を帳消しにした。週初の 20 日は通信株の一角が買われて 3 営業日続伸。21 日には終値で 15 年 5 月以来の高値を更新したが、22 日はトランプ米大統領が推し進める医療保険制度改革（オバマケア）の見直し法案について、与野党双方から反対論が出たことで先行き不透明感が広がり、5 営業日ぶりに反落すると、その後は週末までじりじりと値を下げた。今週は国内の重要イベントが少なく、米中の経済指標に加え、29 日に予定されている英国の EU 離脱通告も意識されそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。